

【平成31年度予算要望】

＜基盤的経費の拡充＞

- **運営費交付金等の増額（基幹経費の拡充）**
- **施設整備費補助金及び施設設備管理維持費の確保・充実**
- **科学研究費補助金予算の拡充**

＜重点分野＞

- ・ 各種補助金の安定的措置
(若手研究者の育成、グローバル化の推進、地方創生等)
- ・ 若手研究者育成（博士課程学生、ポスドク支援を含む）
- ・ 地方創生の中核的機能（人材育成、イノベーション等）への支援
- ・ 本格的産学連携共同研究促進（マッチングファンド等）
- ・ 留学生の呼び込みから就職まで一貫した支援体制の整備
(海外拠点形成と日本定着のための支援策の実施及び規制緩和等)

【平成31年度税制改正要望】

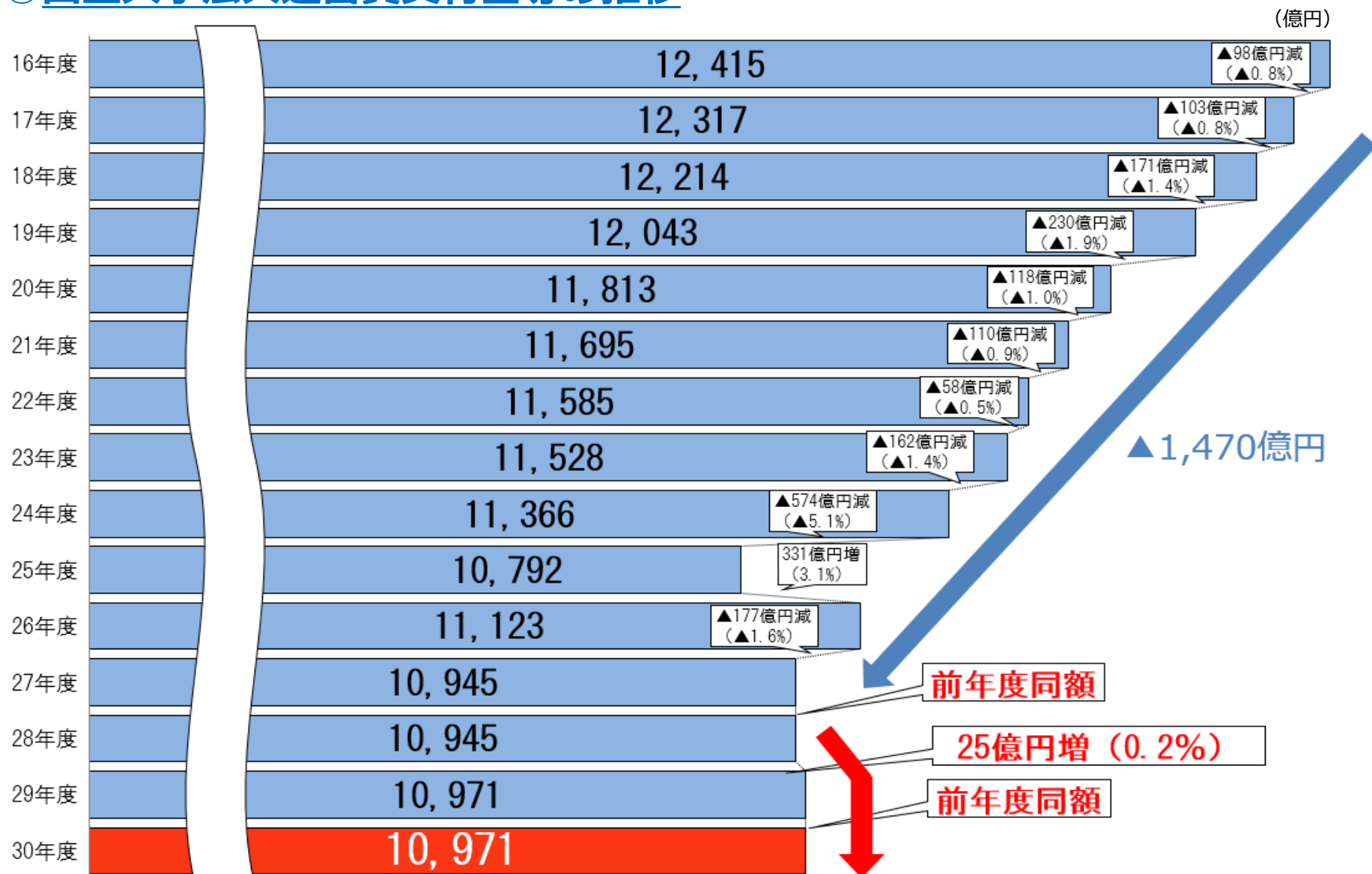
○ 個人寄附の拡大

寄附金の税額控除対象の拡大（修学支援のみならず、教育研究活動全般への支援）



運営費交付金等の削減（再掲）

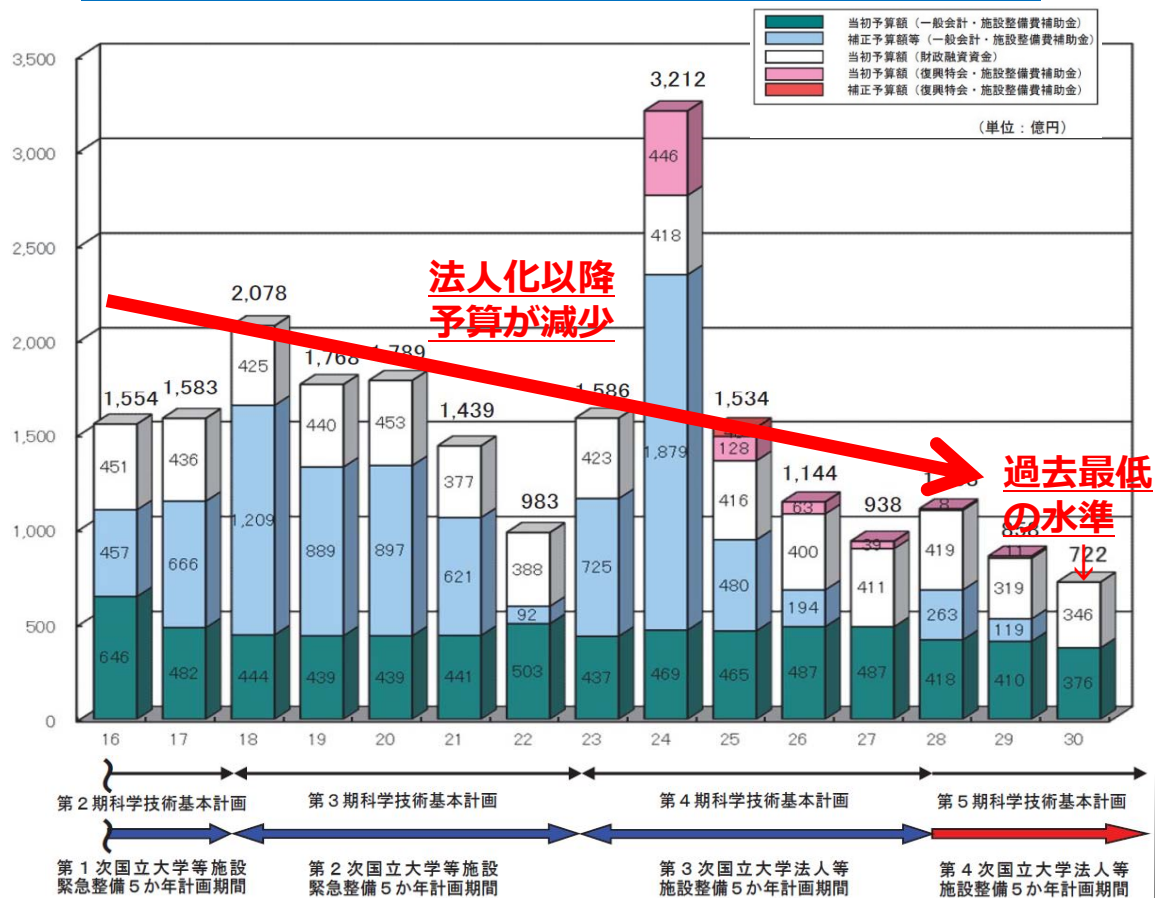
○国立大学法人運営費交付金等の推移



※平成29年度予算額には、国立大学法人機能強化促進費（45億円）を含む。
 ※平成30年度予算額には、国立大学法人機能強化促進費（89億円）を含む。

施設整備等環境基盤の老朽化（再掲）

○ 国立大学法人等施設整備費予算額の推移



課題

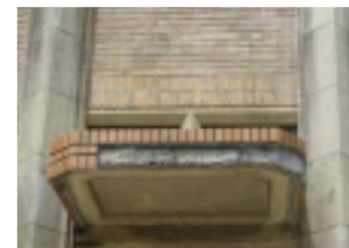
施設整備費予算額の減少により、施設の老朽化が進行し安全面・機能面等に課題。

○ 施設の老朽化

一歩間違えれば大惨事につながる恐れがある！



連絡通路の屋根崩落



外壁の落下



外壁・サッシの落下の危険



配管の腐食



配管の破損による水漏れ



電気ケーブルの劣化

施設設備の深刻な老朽化により、事故の発生率の増加・教育研究の発展や変化への対応が困難であり、**施設整備費を拡充し、研究力を向上させる必要がある。**

事業継続が困難な補助金の状況

○補助金額の減少（H28～H30）

（億円）

事業	H28	H29	H30	H28からの推移
博士課程教育リーディングプログラム	170	150	71	△ 99
卓越大学院プログラム			56	56
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）	40	36	21	△ 19
スーパーグローバル大学創生支援事業	70	63	40	△ 30
国立大学若手人材支援事業	36	32	0	△ 36

各種補助金については、当初予定されていた期間にも関わらず、安定的な措置がされず、**高い評価を受けても、予算が減額されるなど、事業継続が困難**となっている。

（例）スーパーグローバル大学創生支援事業

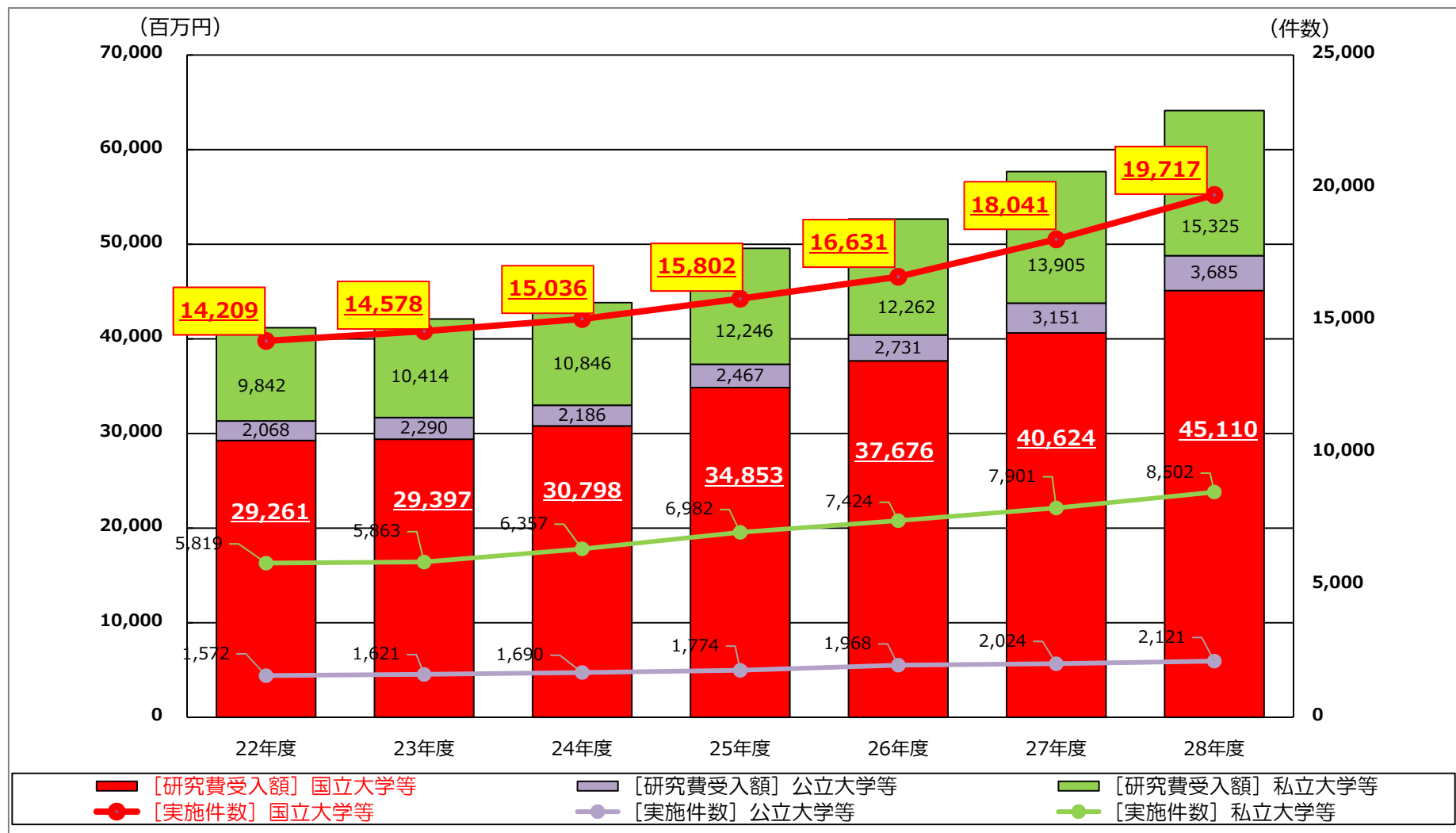
S評価獲得国立大学 ⇒ 前年度から**約20%の減額**

A評価獲得国立大学 ⇒ 前年度から**約40%の減額**



産学官連携強化について

○民間企業との共同研究・受託研究実施件数及び研究費受入額の推移



受入額の約70%実施件数の約65%が国立大学等によるもの(平成28年度)であり、産学連携強化による研究・開発の更なる発展を目指す。

寄附収入の拡大

平成28年度の国立大学への寄附額は**1,313億円**であり**過去10年間で最高額!**

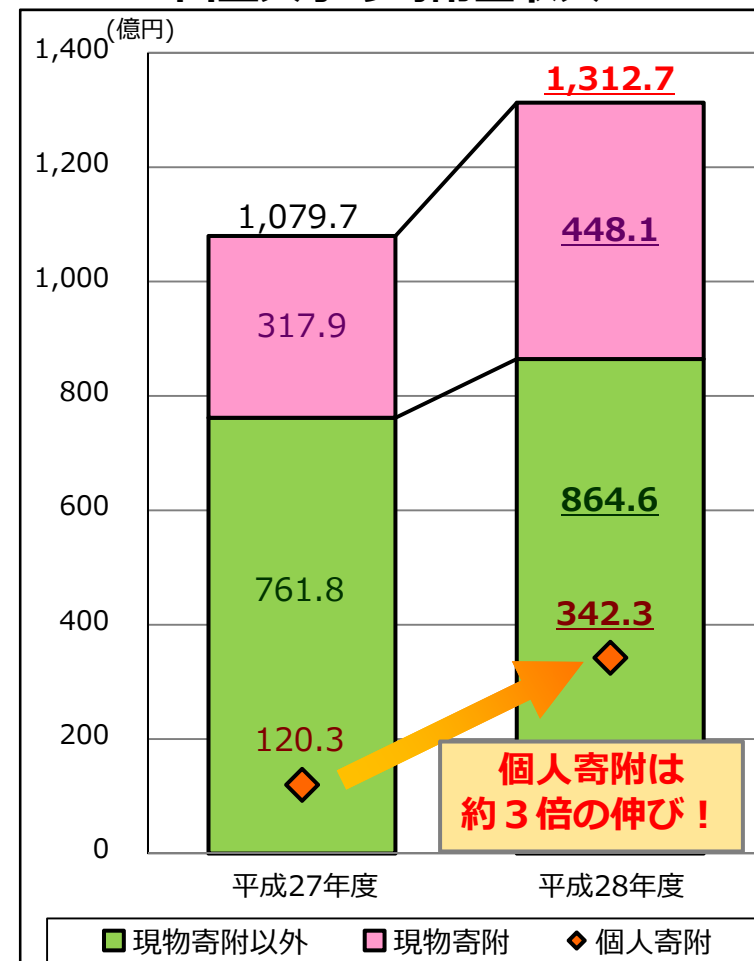
とりわけ**個人寄附**については、平成28年度から学生への修学支援に対する寄附について**所得税の軽減措置が拡充**されたことを追い風に、前年度比で**3倍弱の伸び**を見せている!

○平成30年度の税制改正により、評価性資産の寄附について非課税要件が緩和



これまでも、各国立大学では、クラウドファンディング等の新たな取り組みを積極的に行いながら寄附の獲得に努めてきたが、**本改正を受け、遺贈を含めた個人寄附のさらなる獲得に向け、さらにファンドレイジングに注力していく**

国立大学の寄附金収入



出典：文部科学省提供資料（国立大学の財務諸表等）より
国大協事務局作成。